

マーケットの動き（2022年10月31日～11月4日）

先週の国内リート市場は、前週末比で下落しました。

週初は前週末の勢いが継続し上昇してスタートしたものの、心理的節目に近い2000ポイントを越すと、海外金利が上昇したことも加わり、国内リートは反落して軟調な展開となりました。

セクター別では、オフィスセクターや住宅セクター、商業・物流等セクターが総じて下落しました。

投資環境見通し（2022年11月）

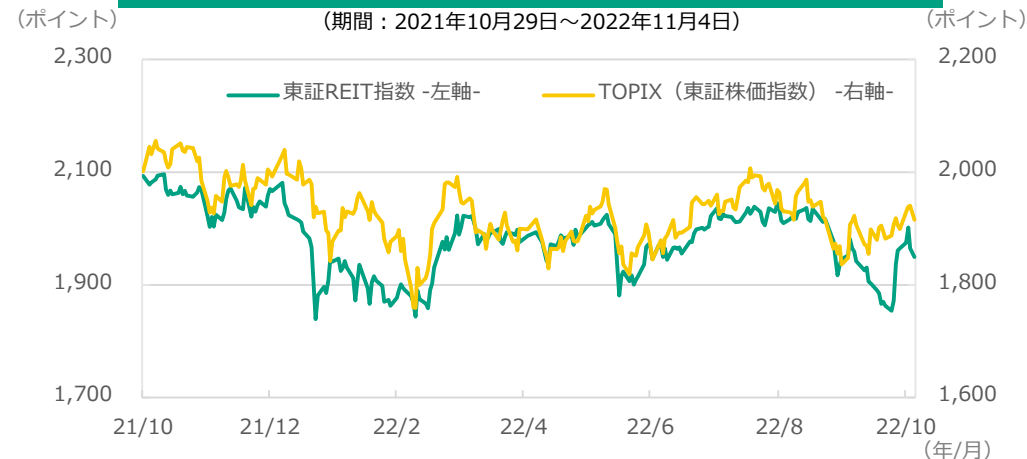
国内リート市場は、引き続き回復基調をたどる展開になると予想

国内外の人流が戻り、ホテルや商業施設、住宅、オフィスの需要回復が期待されます。一部では稼働率の低下による収入減少や光熱費の上昇などの影響が懸念されますが、物件売却益や内部留保で補うことで分配金の維持向上が可能な国内リートも多く、利回りを求める投資家にとって魅力的な水準にある国内リート市場は、引き続き回復基調をたどる展開になると予想します。

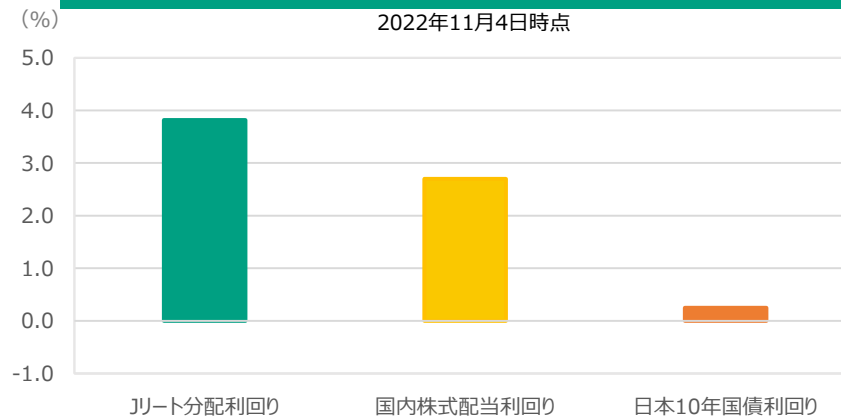
	11月4日	騰落率			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
東証REIT指数	1,949.19	▲0.79%	▲1.61%	▲1.90%	▲6.60%
<ご参考> TOPIX（東証株価指数）	1,915.40	0.86%	0.45%	0.90%	▲6.82%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

東証REIT指数、TOPIXの推移



国内各種資産利回り



※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>